

## 今週のメニュー

## ■トピックス

◇東日本プラスチック製品加工協同組合 創立60周年記念式典

東日本プラスチック製品加工協同組合  
理事長 時田 周明

## ■随想

◇新和环境株式会社の塩ビ壁紙リサイクル事業

第2回 日本壁装協会での塩ビ壁紙リサイクルの取り組み

新和环境株式会社 代表取締役社長 近藤 亮介  
(一般社団法人日本壁装協会 環境顧問)

## ■編集後記

## ■トピックス

◇東日本プラスチック製品加工協同組合 創立60周年記念式典

東日本プラスチック製品加工協同組合  
理事長 時田 周明

平成24年9月19日(水)、東日本プラスチック製品加工協同組合は明治記念館にて、組合創立60周年記念式典を挙行了しました。当日は、経済産業省関東経済産業局産業部製造産業課から青木課長、東京都から産業労働局商工部経営支援課 山田課長、塩ビ工業・環境協会から森会長、日本ビニル工業会から伊藤会長、そして卸商業組合、各団体賛助会員、組合員、組合OBなど総勢83名の方にご出席いただきました。



時田理事長

経済産業省、東京都中央会、商工中金より表彰状

並びに感謝状と、来賓の方々から祝辞をいただき組合の還暦を祝うことが出来ました。ありがとうございました。

会場には、塩ビフィルムメーカー、卸商業組合、加工メーカー、副資材業者、加工機械メーカーなど塩ビ関係者が一同に会し、明治記念館の美しい庭園を見ながらの楽しい会食は、塩ビ業界オールジャパン集団を感じました。

当組合は昭和27年6月に発足しました。発足当時は素材である塩ビフィルム、高周波マシン、ビニール加工製品は新規性があり世の中で注目され、組合員の加入が増え発展しました。

10年単位の組合の軌跡を顧みますと、創立10周年の東京オリンピック2年前(昭和37年)は「成長」、20周年(昭和47年)は「拡大」、30周年(昭和57年)から40周年(平成4年)は「安定」と良い方向に進んで来ました。ところが、創立50周年(平成14年)から60周年(平成24年)を迎えた還暦の組合は、厳しい仕事環境の変化の波に揉まれ、平行してこの波に立ち向かう後継者の減少から組合運営は縮小となっています。

この厳しい環境の中でも、組合の若い人達の心強い立ち上がりがありました。昨年行われた「塩ビものづくりコンテスト」で、組合7社の若い人達が企画した「貯タンくん」が優秀賞を受賞したのです。この製品は発売元・東日本プラスチック製品加工協同組合として今年1月より販売を開始し、工場、役所、地域防災、農園、水道局、金融機関、保険組合等の広範囲に約100台出荷することが出来ました。組合の新しい息吹を感じます。



60周年記念祝賀会場

還暦を迎えて、これから10年、組合は根っこを枯らさないで、「発展」を御旗に社会に貢献できる活力ある組合を目指します。

今後ご支援・ご協力をお願いいたします。

## ■ 随想

### ◇新和环境株式会社の塩ビ壁紙リサイクル事業

新和环境株式会社 代表取締役社長 近藤 亮介  
(一般社団法人日本壁装協会 環境顧問)

#### 第2回 日本壁装協会での塩ビ壁紙リサイクルの取り組み

##### 4 「日本壁装協会」での取り組み

日本壁装協会（現在は、一般社団法人）は、壁紙の製造メーカー、ブランドメーカー、問屋、内装施工団体などが加盟する団体であり、壁紙の「製造」、「流通」、「施工」までがカバーされているため、「壁紙のリサイクルの取り組み」を推進するために、極めて適した団体である。

過去10数年を振り返ってみると、「塩ビ＝ダイオキシン」報道の影響もあって、エンドユーザーの「塩ビ離れ」があり、「非塩ビ壁紙」の流通量が増えた時期もあった。

しかし、内装施工団体からは、塩ビ壁紙の「施工性」、「耐久性」は、圧倒的に高く、「非塩ビ壁紙」の普及は、あまり好ましいことではないという意見も多く聞かれた。壁紙業界が、今後も、塩ビ壁紙を市場に提供していくためには、廃塩ビ壁紙のリサイクルシステムを構築して、リサイクル率を上げていくことが使命となる世の中でもある。

そのような中で、「資源有効利用促進法」に基づき、塩ビ製品のうち、「塩ビ管」、「窓枠」、「雨どい」、「床材」、「壁紙」の5品目（図2）において、リサイクル推進のために、2003年4月1日製造分より、

「∞PVCマーク」

を表示することが義務づけられた。（図3）

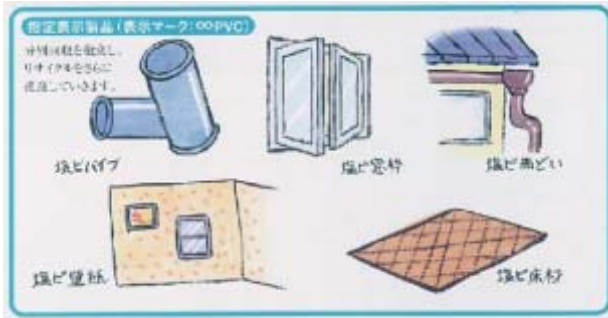


図2) ∞PVCマーク表示対象5建材



図3) 壁紙の∞PVCマーク

この「表示」の目的は、将来、これらの製品が廃棄される時、それを、それぞれの、しかるべきリサイクル先に導くことにあることは言うまでもないが、この当時、「塩ビ壁紙」には、実用的かつ現実的なリサイクルシステムがなく、マークを見たユーザーから問い合わせを受けても、何もすることができなかった。

このような状況をふまえて、それ以降、日本壁装協会では、塩ビ壁紙のリサイクル先を開拓したり、ときには、協会の予算を使って、リサイクルモデル事業を実施したり、リサイクル技術の研究をしたりしてきたが、コスト、安定性、利便性などの面で、決定的なりサイクル先が確保できずにいた。(図4)



図4) [PVCニュース 59号](#)  
(日本壁装協会が光和精鋳に委託したリサイクルモデル事業の紹介)

### 5 塩ビ壁紙の分離技術

塩ビ建材には、「塩ビ単体製品」と「塩ビ複合製品」がある。塩ビ単体製品を、分別集積・分別排出すればマテリアルリサイクルが容易である。既に、塩ビ単体製品の塩ビ管などは、マテリアルリサイクルシステムが確立されている。

一方、「塩ビ複合製品」は、マテリアルリサイクルをするためには、分別集積・分別排出の他に、「分離技術」が不可欠である。塩ビ建材の中では、「塩ビ壁紙」と「塩ビ床材」が複合製品である。

「塩ビ壁紙」よりも早く、「分離技術」が確立した「タイルカーペット」においては、「塩ビ樹脂層を削る」という方式が有効であった。しかし、塩ビ壁紙では、「樹脂層を削る」ということは難しい。何らかの、別の分離技術が必要になる。

そのような中で、2008年に、明治大学理工学部建築材料研究室(当時菊池教授、現

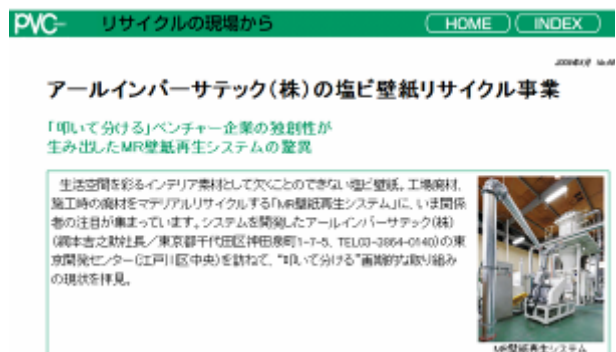


図5) [PVCニュース 69号](#)  
(叩解分離技術の紹介)

在小山教授)、東京都産業技術研究センター、アールインバーサテック(株)が共同で、塩ビ壁紙から高純度の塩ビ樹脂コンパウンドを分離・回収する技術が開発されたことを知った。(図5)

日本壁装協会のリサイクル委員会においても、この技術に注目し、パイロットプラントの視察などを行い、営業運転が始まることを期待して待ったが、実現に至らず、アールインバーサテック(株)は、2012年3月8日に、自己破産を申請した。

(つづく)

今回は、「第3回 アールインバーサテック(株)からの塩ビ壁紙事業引継ぎ」です。

## ■ 編集後記

「暑さ寒さも彼岸まで」とよく言ったもので、今年の暑さもようやく治まってきたようです。今年の夏は、住宅街やマンションのベランダにもゴーヤのカーテンが目立ったような気がします。中には、大きなかぼちゃの葉っぱに覆われたところもありました。我が家でも、庭のプランターにゴーヤを植え、2階からネットを垂れ下げ緑のカーテンの製作に挑戦してみました。しかし、プランターの土が浅かったこともあり、暑さのせいで相対的に水遣りが足りなかったと見え、葉はあまり生い茂らず思ったような緑のカーテンにはなりませんでした。今年のような暑い夏を、来年に期待するわけではありませんが、来年にリベンジを狙っています。(HI)

## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)